

テクノロジー犯罪と嫌がらせ犯罪を俯瞰する!

今日の最先端技術は人間をあらゆる面でコントロールできるレベルにあることはテクノロジー犯罪被害者の証言から明らかである。人間の三欲・生理機能・運動機能・五感・感情・体調（疾病）・痛み・そして思考まで操作できることは被害者の立場では明らかなことで、そのためこれを「人間コントロール・テクノロジー」と呼ぶようになってきているのである。

人間をコントロールするのであるから人体実験をしなければ完成しない技術で、おびただしい数の実験の結果として今の完成度があることは疑う余地のないことである。その端緒は人間機械論にあり、たゆまぬ追究の結果、人間の脳神経が電子回路のように機能しているとの認識から、サイバネティクス技術の開発で拍車がかかったものと考えられる。

人体実験をしなければならないサイバネティクス技術の開発は、守秘義務で守る必要があり、本人に知らせず、また知られずに、究極まで追い込んだ実験データを研究者は欲するものである。これに起因する異常状態の受け皿も必要になり、精神医学の発展も不可欠なものとなるのである。テクノロジー犯罪の世界的展開のためにも精神医学の世界的統一は必須のものとなる。

嫌がらせ犯罪も、実行部隊をマニュアル通り動かして、パニック症状を誘発できるようにプログラムされており、精神医学の世界的な均一的発展に寄与していると考えられる。

嫌がらせ犯罪は他の目的でも使えることから、請け負った各国組織は創意工夫でさらに発展させていて不思議ではない。かかる組織の運営は各国の情報機関でなければできない仕事で、「政府系悪徳犯罪集団」という言葉が相応しく、世界的連携で行なわれている。

高度情報化時代の戦争は、人間に備わっているコンピューターのデータプロセッサとして機能する部位をターゲットにするサイバネティクス兵器が使用される戦争で、その矛先がすでに一般市民に向かっていることを被害者が証言しているのである。これに新型大量破壊兵器としてある、地球物理学兵器、気象変動兵器、生物兵器などが加わって展開されるのが高度情報化時代の戦争である。

米国はすでに宣戦布告なくすべての国に対して高度情報化時代の戦争を展開しているのである!

